

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	令和2年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「利用者様が家庭的な雰囲気の中で安全に過ごして頂ける。」を目標としています。 共用型デイサービスをはじめ、村内の配達弁当サービスの利用など地域の方々や資源を活用しています。 また、受診の際には、極力ご家族様に付き添ってもらうことで、家族で過ごす機会にも繋がっています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2ユニットの事業所は、三陸鉄道の野田玉川駅前にあり、列車が通る音や踏切遮断機の警報音を日常生活で感じることができ、また、交通量も少なく散歩等もゆったりできる環境に囲まれている。地域密着型特別養護老人ホームと併設され、ユニットごとに独自性を保ちつつ、特養と行事や職員配置等の連携を図りながら一体的に運営されている。利用者の意向等を配慮した宅配弁当等に地域の社会資源を活用する提案が職員から出ている。また勤務経験年数長い職員が多く、利用者・家族の安心感にも繋がっている。コロナ禍のため行動制約がある中で、散歩や草取りなどで気分転換を図っているほか、グーグルマップやユーチューブを活用して実家の状況や過去のお祭りの状況を鑑賞するなど、視覚に訴える工夫を凝らして利用者を楽しませている。法人の社会貢献活動として、認知症カフェの開催やいわてあんしんサポートを活用した子どもの居場所づくりにも取り組んでいる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目につくようにユニット内に掲示している。また、ユニット会議の際に復唱している。	特養と一緒にの基本理念をユニットに掲示し、ユニット会議で唱和している。それぞれのユニット会議で話し合いながら、具体的な目標を掲げた事業計画を毎年度作成し、基本理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所、学校はお互いの行事の際に参加し合っているが今年度は出来ていない。その他、自法人で認知症カフェの開催、施設広報誌を回覧している。	年4回発行の法人広報誌「結の里・ぬくもり便り」を玉川地区で回覧している。例年、保育園や小中学校との夏祭り、運動会等の行事を通じた相互交流、婦人会や傾聴ボランティアの受け入れを行ってきたが、今年はコロナ禍で見送られている。近所から野菜や魚介類の差し入れ(今年は松茸)を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各相談の受付を行い、地域ケア会議や認知症カフェ等で地域の方々との情報交換や連携を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事に合わせて運営推進会議を開催している。その際、頂いた意見をもとに日々のサービスや今後の運営に生かすよう検討している。	2ヵ月ごとに開催し、認知症カフェ開催や利用者との昼食会等の事業所行事に併せて、特養、認知症デイと一緒に運営推進会議を開催してきた。今年はコロナ禍のため行事は見送られ、会議は7月から通常の形で再開している。事業所作品展へ地域住民作品を出展する等の意見を活かしている。ゲストメンバーとして警察や消防関係者の参加を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、事業所と地域の状況の把握と情報共有の場としている。	運営推進会議には、村の地域包括支援センターと担当課職員が委員として出席し、毎月開催の地域ケア会議では、事業所の職員も出席し運営状況等の周知に努めている。村では、事業所主催の認知症カフェに保健師を派遣し、事業所では村認知症サポーター養成研修に職員を派遣するなど、相互の協力関係が構築されている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会を開催している。 事業所内の件数や、今後の予後を踏まえた話し合いを行っている。	3ヵ月ごとに開催される法人主催の身体拘束廃止委員会に管理者、計画作成担当者、介護職員が参加している。身体拘束廃止の指針、身体拘束廃止マニュアルは法人で一括して作成している。昨年は11月と12月に研修会を開催し、1回はスピーチロックを取り上げている。日常の支援で不適切発言がある場合には、職員間で注意し合い、ユニット会議でも取り上げて注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ガイドラインをユニットに配置し、いつでも目に出来るようにしている。 毎年、研修を行い資質の向上を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等の資料をユニットに配置し、いつでも確認できるようにしている。実際に支援が場合は関係部署が中心となって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、相談等は管理者が中心となって行っている。ご家族様からの問い合わせは、精査し全ユニット職員で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そのつど要望を受付できるよう配慮をしている。また、運営推進会議に利用者と家族も参加して頂いている。	法人広報誌(年4回)に加え、事業所での生活を分かりやすく理解してもらえるように、独自にぬくもり新聞(年4回)を定期に送付している。コロナ禍の面会制限により、家族とは電話でのやり取りとなっている。お話しの最後に「ご要望はないですか。」と伺うことにしている。	写真を主とした事業所独自の「ぬくもり新聞」を発行し、事業所全般の状況を伝えているが、面会制限もあることから、個々の利用者の生活や健康状況を家族に伝える仕組みを作り、実行することを期待します。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に話し合い事項を募っている。また、会議の場でも参加職員には意見や要望をもらうように進行している。	職員会議は毎月、ユニット会議は隔月に開催し、参加出来ない職員からは事前に意見等を聞き、更に管理者による個別面談も行って、職員の意見が反映されやすいよう配慮している。一部調理時間を介護に振り向けることが出来るよう、宅配のお弁当導入について職員から提案があり、村内3箇所の事業所の協力で具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働条件を満たすような勤務状況でシフトを作成している。また、急な年次請求にも応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外にとらわれず研修に参加できるように促している。研修後は伝達講習を通じて、他の職員の資質向上になればと考えて努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地域ケア会議などを通じて村内の同業他社や関係機関と意見交換を行っている。また、普段でも電話などを用いて情報共有を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	守秘義務を厳守し、傾聴しながら相談を受けている。また、相談や要望を受けた職員との記録や口頭での情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	守秘義務を厳守し、傾聴しながら予後や制度などを含めた提案もしながら相談を行っている。また、相談や要望を受けた職員との記録や口頭での情報共有を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時に、一つひとつの要望を聞きながら見極めをしている。他にもサービスが必要な場合は、関係各所とも連携を持つようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長としながら、できる所は行ってもらうように促して残存機能の維持、向上をはかっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時など通じて家族で過ごしてもらえるような機会を大事にしている。その他にも、行事などには積極的に家族への参加を促している。今年度はコロナにて殆ど難しい状態にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時などには、居室や別室を用意している。気兼ねなく過ごして頂けるように配慮をしている。	コロナ禍で面会制限が続く中、利用者は家族とユニットの外線電話でお話できるようにしている。自宅、野田村の市日、祭りなどに行けないため、グーグルマップやユーチューブで関連する写真や動画を鑑賞してもらっている。隣市出身の利用者のため、同市の広報誌を入手し、手に取って見るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにこだわらず利用者同士が行き来している。余暇活動を通じて関わる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族や退所先からの問い合わせには、いつでも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から本人や家族の意向を確認するように努めている。	利用者の全員が言葉で意思表示出来ている。午後のお茶の時間帯には、利用者と職員が共にゆったりしながらお話をし、意向を伺い知る機会となっている。職員がゆったりしていると利用者が近寄り、思いなどを話す雰囲気となり、会話を重ねる中から利用者の現状を把握し、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の相談時や日々の生活の中で聞き取るようにしている。環境の変化を最小限にしたいと思ひ馴染みの物の持ち込みもお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子を記録し、申し送りや連絡ノート等を用いて状況の把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のニーズを確認。カンファレンスを通じてケアを行っている。状態の変化などが見られた際は、即座に記録し経過観察や計画の立案を行っている。	モニタリングシートを用いて、その日の出勤者で毎月カンファレンスを行っている。短期目標を6か月、長期目標を1年とし、達成状況に応じ見直しの際に目標を入れ替えている。利用者の一人が裁縫を特技とすることを把握し、家族の意向も確認の上、介護計画の目標に取り入れた事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、連絡ノート、個人の記録を行い、共有している。この情報をもとに介護計画の見直しや立案を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話や相談の際に、要望の聞き取りを行っている。認知症カフェ、地域ケア会議などで、相談できる機会が増えている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や行事への参加に努めているが今年度は出かける事は中止している。その他、必要品や受診後のお薬は配達サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合い、情報提供書として日々の報告をしている。施設で受診対応した場合は、家族への報告も行っている。	利用者の全員が、入居前のかかりつけ医を継続して受診している。家族と一緒に通院がは7名、その他は職員が同行している。家族との通院時には、かかりつけ医に事業所での生活状態を記録した情報提供書を提供している。職員同行で受診した場合には、診察結果を電話で家族へ伝えている。毎月の歯科衛生士による口腔ケアの事前情報を基に、訪問歯科診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気づいた際に速やかに相談している。相談内容は記録し共有しケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は医療機関のカンファレンスに参加し、連携室と情報共有交換を行っている。また、その他の関係各所とも連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と情報提供を行い本人と家族の意向に添うように支援している。施設での対応が困難な場合は十分に話し合い、医療機関や他事業所への移行などが出来るように調整と情報提供をしている。	現在まで看取りの実績はないが、ユニット管理者の2名は他施設で経験している。法人の全体研修で外部講師を招き看取り介助の研修を行い、併設の特養では先行して看取り介助導入に向けた具体的な検討を始めている。但し、訪問診療、訪問看護の社会資源が地域では乏しい状況にある。	

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、急変時の対応の研修を行っている。施設内研修も行い備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。避難経路を掲示したり、避難手順の確認をしている。	事業所は、ハザードマップ上では危険区域外とされ、村の福祉避難所に指定されている。年2回特養と合同の避難訓練を実施し、今年度は地域住民が参加しない通報訓練を計画している。避難先は、駅前広場と裏手のコミュニティセンターとなっている。	避難経路が砂利道のため車椅子での避難に課題があり、最終的な舗装改修に至らないまでも、現状で出来る避難方法等について話し合い、避難訓練の場で試行を重ねながら最適な対策を講じらることを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じて、権利擁護や守秘義務等について資質の向上を目指している。個別空間と共用空間の住み分けることで対応している。	トイレ誘導の際は「ちょっと散歩に」などと、立ち上がるきっかけの声掛けをしている。居室訪問の際はノックし承諾を得てから入室している。名前は苗字に「さん」付けで呼ぶことを基本としている。入浴の際には利用者の意向に添って、同性介助でも対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の中から要望をくみ取り、本人が自己決定できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおむね食事、入浴時間などは決まっているが、拒否が聞かれた場合には、その意向に添って対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に家族へ衣替えを依頼している。しせつ散髪は希望される髪型の確認を行っている。			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	寿司の日、地域の宅配弁当、希望献立、催し物を通じて、楽しめるような工夫をしている。その際、一緒に準備や片付けを行っている。	利用者の希望メニューを取り入れた献立としたり、毎月1回の寿司の日、地域の宅配弁当の活用など、職員は様々な工夫を凝らしながら、1ヵ月分の献立を立てている。事前準備の盛付け、配膳等は2名、後片付けは半数の利用者が職員と一緒に各ユニットで行っている。隣のユニットでの食事にも柔軟に対応している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に水分補給を行い、食事量と合わせて状態把握を行っている。また体調にあわせて量の調整や補食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。夕食後は洗剤を使用し義歯を保管している。村内歯科医院と連携し口腔ケア指導や診察を受けている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子を記録し、個々の排泄に合わせて使用具やトイレの促しを行っている。また、職員間で話し合いの場を設け一人ひとりに添った支援が出来るようにしている。	排泄時間を記録し、次の誘導時間を把握する目安としている。各ユニットにはトイレが2カ所あり、排泄の自立者は各ユニット1名、その他の利用者にはリハビリパンツ又は尿取りパッドを併用し、ポータブルトイレ利用者はいない。適切な水分摂取と排泄の促しを行うことで、膀胱炎の症状が改善した利用者の事例がある。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や散歩などを行い状態確認をしている。その他、便通に有効な乳酸菌食品を取り入れ食事を提供している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね入浴日は決まっているが、気分等を考慮し曜日や時間の変更をして対応している。	月曜から金曜内の週2回、午前を基本とし水曜を調整日にして30分前後の入浴時間となっている。現在、特浴対象者はいないが、その際は特養浴室を活用することができるメリットがある。異性介助を嫌がる方には同性で対応している。シャンプー、石鹸、保湿剤等は慣れ親しんだ好みのものを個別に用意し、籠に入れて管理している。柚子湯、菖蒲湯もあり、職員とゆったりと会話しながらのリラックスできるひとときとなっている。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のエアコンを使用し、個々に空調調整している。また家族との情報交換により馴染みの物を持参してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の保管。残薬数を一覧化し医務とも情報共有をしている。また、残薬数も一覧化して残数を管理している。 服薬時、服薬後のダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やトランプ、かるた等を楽しみに行って、その他に、茶碗拭きや掃除といった家事的な役割を持って生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク計画を立案し行っている。 要望がある場合は、屋外への散歩などに対応している。	駅前にあることから三鉄を利用して宮古に行ったりしたこともあるが、今はコロナ禍で遠出できない状況となっている。外気浴を兼ねて事業所の中庭に出たり周辺を散歩している。中庭の花の手入れ、草取りを行い、刈り取った草や枝で焼き芋会を実施し、好評を得ている。今秋に紅葉ドライブを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預り金として管理している。その際は、同意書を交わしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、電話の使用や取次を行っている。 年末には家族へ向けて年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や季節の花を飾り季節を感じ工夫をしている。また、照明の調光機能を使ったり、温度の調整はエアコンを使用している。	エアコン、加湿器、床暖房(一部)の設備がある。事業所の周囲に光を遮る建物などなく、日当たりは良く、季節の花や塗り絵等が飾られている。両ユニットへ自由に行き来できる連絡通路があり、運動や気分転換の場ともなっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症対応型共同生活介護施設グループホームぬくもり(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を気の合う者同士としたり、ソファを設置し個々で過ごせる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物などの持ち込みは可能としている。持ち込みの際は本人と家族と相談を受けている。家庭の延長とした環境、雰囲気づくりを心掛けている。	エアコン、ベッド、箆笥、洗面台、床頭台、ナースコール、テレビ端子が備え付けてある。テレビ、人形、携帯電話の持ち込みがある。居室ドアには、利用者が描いた絵や習字の作品を飾り、自分の部屋であることが認識できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせ居室の寝具や家具を配置をしている。状態に変化が生じた場合は、速やかに検討し対応している。		